

2020年5月1日

2020年度開講にあたって（学生・保証人の皆様へ）

青山学院大学コミュニティ人間科学部長
鈴木 眞理

いつの間にか桜の季節も終わり、新緑が綺麗になっています。お茶の新芽は、いつもと同じように育っています。

新型コロナウイルスの感染が今でも続いており、気の重たい中で、一ヶ月遅れの開講となりました。しかし、キャンパスは閉鎖され、通常の「対面」による講義ではなく、「オンライン授業」という大学の本質を台無しにしてしまうような形での開講です。聞き慣れない「コロナ」「キャンパス封鎖」「対面講義」「オンライン授業」などという、ちょっと前までは意識しなかった言葉があふれている、まさに異常な事態です。

私どもは、今、歴史的な場面に立ち会っています。後世の歴史書で必ず言及される場面です。一人一人が毎日をどのように過ごしていくかは、人類の未来を決定することにつながることになるのでしょうか。大きな責任を課せられているのです。

学生の皆さんは、せっかく入学したのに、2年生になったのに、とがっかりなさっていることと思います。また、この時期は期待と不安が入り交じった感覚を持つ時期なのに、不安だけになっているのだと思います。安請け合いはできませんが、私ども教員は、全力を挙げて、大学の本来の姿を取り戻そうと努力します。オンライン授業にも対応しますし、可能な限りでの学習の支援を試みます。教員も初めての経験ですので、一緒に状況を切りひらいていきましょう。

青山学院大学としてさまざまな対応がなされていますが、コミュニティ人間科学部としても、きめ細かな対応をしたいと考えています。キャンパスが閉鎖されており、隔靴搔痒の感もありますが、講義担当の教員とコンタクトもとれるようになっています。そのルートも活用し、どのような支援が必要かを伝えてください。学修上の問題や経済的な問題など、さまざまな困難を自分だけで抱え込まないで、教員と共有して知恵を絞って乗り越えていきましょう。保証人の方々も、よろしくご支援ください。

健康が第一です。命を守る、という言葉が決して大袈裟だとは考えられない状況になっています。まず命、まず健康です。自分のことを考えることが、周囲へと、社会全体へとつながることを考え、行動してください。この際、コミュニティ人間科学部で学ぶということの意味を十分に認識してください。

状況が改善され、「通常」の大学のあり方に戻ったら、学生の皆さんとは学食で、一緒に昼メシ、いやランチをしましょう。その日が早く来るための行動を、共にしましょう。

*なお、オンライン授業に関しては、別添文書を参考にしてください。